

アズレン孕ませ出産小話

ソットサス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

おっぱいのおつきいもちっちゃいも関係なく、指揮官に孕まされて出産する話。

オリジナル設定を含みます。

後完全に性癖です。

目次

イラストリアス とセントルイス

とろとろお♡♡♡と、愛液をだらだらと垂れ流しながら、仰向けM字開脚の構えで今か今かとご主人様のお帰りを待つ奥様マンコ♡♡、はやくママにして♡♡とおねだりする欲張りマンコ♡♡♡2人は優しく手解きをしあまあまセックスをしようとしていたが、それは指揮官によって粉碎される。溶けた鉄を思わせるチンポでイラストリアスを

どっちゆゆううううんん♡♡♡♡♡
と、貫いた。

「お〃お〃お〃おおほお〃お〃お〃おおおおおお〃♡♡♡♡♡
」

「えっ♡♡♡!?!うそっ♡♡♡、そんな♡♡♡」くちゅ♡♡くちゅ♡♡

普段の美しくも可愛らしい声とはかけ離れたブタのような声を上げるイラストリアス ママ。一撃で陥落した聖母を見て怯えるセントルイス。

ばちゅっつ♡ばちゅっつ♡♡

「お〃お〃っほおっ♡♡♡、し、しきかん♡♡ひやまあ♡♡♡」

ばっすうんっ♡♡ばっすうんっ♡♡

「お〃♡♡、おくう♡♡♡、えぐれ♡♡、なか♡♡ひっかかってえ♡♡、だめえ♡♡」

ぼちゅっん♡♡ぼちゅっん♡♡

「だめえ♡♡♡、しきゆうう♡♡♡、おりてきちや♡♡♡だめえ♡♡」

ぼっちゅ♡♡♡どちゅごりいい♡♡♡

「お〃お〃ぎよっひよおおお〃お〃お〃おおおおお〃♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡し、しきゅ♡♡♡、オチンポさま♡♡♡、ボコボコきしゅ
う♡♡♡♡♡」

遂に指揮官の肉棒がイラストリアス の赤ちゃん部屋を直接ノックした、あまりにも乱暴なお父さんの登場に、お部屋の中の卵はぶるぶる♡と震えていた。

ギンッ♡♡ギンッ♡♡ビクッビクッ♡♡♡

「だめえ♡たまごうまないでえ♡おねがいい♡やあ♡♡」
精子に刺激された卵巣がポコポコとラブラブエッチを夢見るよわよわ卵を産んだ。

それを感じ取った数十億の指揮官精子は、どこだ♡どこだ♡、俺を産ませてやる♡、ママのミルク飲んでバブバブしてやる♡と一直線に動き始めた。

ぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「いやっ♡♡、いやあ♡♡♡♡♡」

そして、よわよわセントルイス卵は包围され一気に突撃された

ぶぼじゆるりゆりゆるるうくくくくくくつっ♡♡♡♡♡♡♡♡

「ぼっひい♡♡♡♡♡!?!」

受精したセントルイスは涎を垂らし、白目を剥いて気絶した、その後は2人とも指揮官専用のオナホ兼、ミルクサーバー兼、おトイレとして、一晚を過ごした。

10ヶ月後2人の出産予定日

「んっ♡♡、旦那様もヘンタイですね♡♡、この子達も困ってます♡♡んっ♡♡」

「ふうっ♡、こーんな風にパパと会ったら♡♡、お腹の子♡♡も、ヘンタイさんになっちゃう♡♡、んひっ♡♡」

2人は以前と違い、イラストリアスはウエディングドレスを、セントルイスは銀色のドレスを着てお腹をぽっこりと膨らませていた。

エロ蹲踞の構えでポールに腕を絡ませ、産む体勢を作っていた。

公開出産セックスアクメをするためだ。赤ちゃんがいる部屋を出産しながらボコボコに叩いてもらって産みやすくして、2人で1人ずつ子供をぶつつひいい♡♡♡♡おんぎいい♡♡♡♡と鳴きながらブリブリ♡♡と産む姿を愛しのダーリンに見せる。

「旦那様♡♡、イラストリアス♡♡、準備できました♡♡。」「パパ♡♡、セントルイス♡♡、いつでもOKよ♡♡。」

以前と比べ少し黒味が増した秘部を見せる2人、そのグロテスクな入口のたった30数センチ先に愛の結晶が眠っている。

指揮官としてはどちらから犯しても別に良かった、だから2人に耳打ちして、その結果を見て犯すことにした。

「んっ♡♡♡、パパも♡♡♡♡♡、わるいひとつ♡♡、でも♡♡♡♡、いうこと聞いちやうわ♡♡♡♡♡。」

「このイラストリアス♡♡、旦那様のためならば♡♡♡、如何なる恥辱も♡♡♡♡♡、痛みも♡♡♡、耐えますわ♡♡♡♡♡。」

そして2人に耳打ちした内容とは

クネっ♡♡♡♡♡クネっ♡♡♡♡♡

「だんなさまあゝゝ♡♡♡♡♡、どうか♡♡、どうかあ♡♡♡♡、この卑しき白豚にい♡♡、つよつよざゝめんをお♡♡♡♡、ぶりゆぶりゆつてブツこいてくださいあい♡♡♡、ママより先にい♡♡、赤ちゃんにい♡♡、ミルクのませてあげてくださいい♡♡♡♡、ざゝめんのませてあげて♡♡♡、パパだよゝつて♡♡、教えてあげてくださいませえ♡♡♡。」

「ごしゅじんさまあゝゝ♡♡♡、おねがいですうゝゝ♡♡♡、この淫乱青豚をお♡♡♡、ぼちゆうっ♡♡♡♡、ぼちゆうっ♡♡♡♡、つて中にいるあかちゃんもろともお♡♡♡、犯してくださいい♡♡、子宮のなかあ♡♡♡、あかちゃんのおねんね部屋あ♡♡、ぜええゝんぶ♡♡♡、あなたの真つ白アツアツドロドロザゝメンで埋め尽くしてえ♡♡♡、赤ちゃん産むときにい♡♡、ザーメンお化粧してくださいい♡♡♡」

もうすぐ母親になるというのにへこっ♡♡へこっ♡♡と腰をくねらせ、ぶしゅうう♡♡♡と時折り潮を吹く2人、たった1人のパパの寵愛を誰よりも受けたくて仕方がなかった。お腹の赤ちゃんにパパの素晴らしさを教えたくて仕方がなかった。もぞもぞ♡♡とお腹の中で動く愛し子もろとも犯してほしかった。

そんな2人のママのおねだりを見た指揮官は、子宮まで届くほど高く槍を昂らせていた。そして、まず最初にセントルイスを犯すことにした。

ぐりゆりゆりゆりゆうゆう♡♡♡♡♡ずつぶうづうづうん♡♡♡♡♡

「はいってえ♡♡、きたあ♡♡」

以前のレイプのような挿入から一転、どこか母子を案じ、労るかのような優しい挿入だった。

「もうっ♡♡、おねえさんとパパのお♡♡、あかちゃんよおっ♡♡、ちつとやそつとじゃ♡♡♡♡、ケガしないわ♡♡」

そんなセントルイスの甘い呼びかけにも、応じなかった。

ぐつりゆゆううう♡♡♡、ぬつちゆううう♡♡♡♡♡

「しきゆう♡♡♡、ぱはとちゆうしてゐるわ♡♡…あのこっちもちゆう、うむっ♡♡♡、はむっ♡♡♡むぢゆる♡♡♡、れろお♡♡♡、んちゆう♡♡♡♡」

「ねっ♡♡♡、もつと激しく♡♡、パンパン♡♡♡しよ♡♡、ゴリゴリ♡♡子宮ほじってえ♡♡♡、産気つげちやおっ♡♡」

すると、指揮官は

ぱんっ♡♡♡ぱんっ♡♡♡ぱんっ♡♡♡

「んっ♡♡♡、きたあ♡♡♡♡」

少し激しく、それでも優しくお腹のあかちゃん部屋にノックし始めた。

もぞっ♡♡♡もぞもぞ♡♡♡

「あかちゃんもお♡♡♡、うれしくってえ♡♡♡もぞもぞしてゐるう♡♡♡」

赤ん坊が動き回るからお腹からもどう動いているのかはつきりと見ることができた。

ばちゅっ♡♡♡ばちゅっ♡♡♡ばちゅっ♡♡♡

びきい♡♡♡びききい♡♡♡

「パパのお♡♡、膨らんでえ♡♡♡、あかちゃんに♡♡、みるく♡♡、のませようっ♡♡♡♡♡してゐるう♡♡♡」

ぐりゆ♡♡♡ぐりゆ♡♡♡ぐりゆ♡♡♡

「あっ♡♡、もっもっ♡♡♡、だそっ♡♡♡してゆっ♡♡♡、お入やのいりぐちい♡♡、ねらいすましてゐるう♡♡♡、あかちや♡♡、とお♡♡、おかさ

「おびっ♡♡♡、べひっ♡♡♡、んぶふえ〜♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

頭の中はパパすき♡だいすき♡あいしてる♡イク♡あかちゃんすき♡きもちいい♡うむ♡あかちゃんうむ♡とラブコールと快樂が大きな渦を作り上げて、理性を抉り取っていた。

そして、蕩けていた2人に出産の時が来た。

どくん…♡どくん…♡

「お〃お〃♡♡♡!?じんづう♡♡きりや♡♡きもち♡♡いい♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

どくん…♡ぷっしゅううううう〜♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「ようすい♡♡、でたあ♡♡♡♡♡」

愛液とも精液とも異なるくっさあい♡♡羊水がぶっしゅううう〜♡♡♡♡♡と間欠泉のように吹き出した。

どくん…♡どくん…♡ごちゅうう♡♡♡

「いぎい♡♡♡、あかちや♡♡♡、あたまあ♡♡♡♡♡、しきゅ♡♡♡、ごおに〃い♡♡♡、あ〃ででる〃う♡♡♡♡、ごじあ〃げよ〃う〃どじでる〃う♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

指揮官のオチンポより太い愛の結晶が子宮を内側からこじ開けようとしている。場合によってはショック死してしまったり、出血多量で死んでしまうこともあるが、頑丈なKAN—SENには縁のない話である。それに、ご主人様によって陣痛や出産時の痛みも全て快樂へと交換する様に調教されている。

めりい…♡♡めりめりい…♡♡めりめりい♡♡♡

「あ〃がぢや♡♡♡、はやぐう♡♡♡、はやぐでてえ♡♡♡♡♡、おね〃がい〃い♡♡♡♡♡、ん〃ん〃ぎい〃い♡♡♡♡」

ごりい…♡♡ごりゆりい…♡♡ごりりい…♡♡♡するるう…♡♡

「や〃だあ〃あ♡♡♡しぎゆうに〃い♡♡も〃どらないでえ♡♡♡♡♡あ〃ぞばないでえ♡♡♡んぎい♡♡んぎつぐう♡♡♡」

赤ん坊の出産とは何度も赤ん坊が胎内で回転を出産に適した体型になるまで繰り返し、できるものだ。肩まで外に出ればズルツと産め

「お姉さん♡、ママになれたのね♡、ふふっ♡♡、うれしい♡、指揮官
くん似てとおっても♡、可愛らしい子♡、ほおくら♡、ママのおっ
ぱいでちゅよ♡、ばぶばぶ♡」

赤ん坊を見ると、すぐさま撫でて、確認する母親たち。その姿は、教
会の聖母のステンドグラスのようにも見える。指揮官は持っていた
ハサミでへその緒を切ると、タオルで母子を優しく拭き始めた。

「旦那様♡、ありがとうございます♡♡、

これからも娘と一緒に愛してくださいね♡♡♡、どんな困難も私
たち家族なら乗り越えられますわ♡♡♡」

「パパ♡、ありがとう♡♡♡、ちよつと乱暴でやんちゃなところもあるけ
ど、優しくて大好きよ♡♡、この娘もパパに似てきつと優しい子にな
るわ♡♡♡」

拭き終わると、2人は赤ん坊に授乳を始めた。

「んっしよと♡、躓かないように♡、はい♡♡、ミルクですよ♡♡♡、
ぐくぐく♡♡」

「よいしよと♡、横抱きして♡、よちよち♡♡、ママのミルクでちゅよ
♡♡♡、ばぶ♡♡」

愛し子の頭を優しく撫でながら、あまあま♡ミルクを飲ませてい
く。時折り、体勢がキツくならないように、微移動しながらあやして
いく。

「ふう♡♡、いい♡♡」

「よし♡、いい♡でちゅね♡♡」

2人のママは近くにあるブランケットの敷かれた赤ちゃんベッド
にそれぞれの子を寝かせると、指揮官に向き直って密着しながら正座
し、両手をかざした。

「よくミルク我慢できましたね♡、こんどは旦那様の番ですよ♡」

「パパもママに甘えていいんだよ♡、いっぱいよしよししてあげるか
ら♡」

2人の聖母が安息へと誘う。

指揮官は2人の膝へ頭を埋め、甘い女神の声と温もりに包まれなが

ら眠りについた。